日吉台新聞
HIYOSHIDAI
平成28年4月1日

今、晴れやかに27人巣立つ

日吉台小卒業式

市立日吉台小学校（田中誠校長）の平成27年度、第34回卒業式が3月18日、同小体育館で行われ27人が、中学生への夢と希望を胸躍らせ巣立った。

卒業式は、川上建司日吉台市民センター所長、濱崎博学区自治連会長ら来賓はじめ父母、在校生らの拍手のなか、卒業生が入場して開始。一人ひとりが、マイクの前に立ち中学生に進学する決意（**別項に記載**）を表明、田中校長から卒業証書を授与された。

田中校長が式辞で「日吉台小で学んだことを中学生生活に活かし頑張ってください」とはなむけの言葉を送り、在校生の送る言葉のあと、卒業生らがかわるがわる学校の先生やお父さん、お母さん、祖父母らに感謝の言葉を述べ、「旅立ちの日に」を元気よく斉唱、在校生らに送られ思い出の校舎を後にした。

卒業証書を受け取る前に中学生への決意を述べる日吉台小の卒業生

卒業式を前に「６年生を送る会」も催された。在校生が各学年ごとに器楽演奏、縄跳び対抗戦、綱引き大会、クイズなどを行ない、一緒になってクイズやゲームに大はしゃぎ。また、毎日、通学の安全を見守りを続けてきたスクールガードの人たちも招待、感謝のフォトメッセージを送った。

発　行
日吉台学区自治連合会
日吉台学区まちづくり協議会
発行責任者
林　堅太郎
編集責任者
野々口　義言

題字は
４－11－２
梶谷清苑さん

◆中学生になったら、これをがんばりたい！

・バスケットボール部に入って，勉強と運動を両立してがんばりたいです。
・中学では教科が増えるので，予習復習などをして勉強により力を入れたいです。
・野球部に入って、レギュラーになれるようがんばって練習します。
・会話ができるくらいの英語の力を身につけたいです。
・野球部に入って，監督に認められる選手になりたいです。
・部活はバレーボール部に、勉強は数学をがんばります。
・運動が苦手なのでテニス部に入って、少しでも運動を得意にしたいです。
・入りたい部活はまだ決めていないけれど、入部したらがんばりたいです。
・将来、看護師になれるように、すべての科目が得意になるようがんばりたいです。
・難しくなる数学の勉強をがんばります。
・運動は陸上を，勉強は数学をがんばりたいです。
・外国で生活できるぐらいの英語の力をつけたいです。
・算数が苦手なので，中学では数学に力を入れたいです。
・国語が苦手なので，勉強してよい点数を取りたいです。
・算数が苦手なので，数学をがんばります。
・算数が苦手なので数学と，部活ではバスケットボールをがんばりたいです。
・勉強は英語を，部活は吹奏楽をがんばりたいです。
・中学校では，勉強とカルタをがんばります。
・将来のためにいろいろなことを学びたいです。
・英語の単語を覚えるのが苦手なので，単語の練習をがんばりたいです。
・数学の勉強と，部活をがんばります。
・遊びと勉強の両立をがんばります。
・勉強が苦手なので，中学校に行ったら勉強をがんばりたいです。
・バドミントン部に入って，スポーツにがんばります。
・テニス部に入って部活だけがんばるのではなく，勉強もがんばりたいです。
・小学校で苦手だった社会科の勉強を，中学校でもがんばりたいです。
・新しく始まる英語の勉強をがんばりたいです。

日吉台幼稚園でも卒園式

ママに感謝の言葉元気よく

日吉台幼稚園（斉田佳子園長）の27年度幼稚園課程修了証書授与式（卒園式）が３月17日、同園遊戯室であり５人が、父母や地域の人らの拍手のなかNHK朝のドラマの主題歌「３６５日の紙飛行機」の歌に送られ卒園した。

卒園したのは、杉本寧音ちゃん▽高田一輝ちゃん▽中西彩晴ちゃん▽松下絢音ちゃん▽吉田汐華ちゃんの５人。斉田園長から修了証書を受け取った園児たちは、壇上に勢ぞろい。出席していたお母さんの前で、一人ひとりが元気よく感謝の言葉を述べていたが、わが子の成長ぶりに思わず目頭を押える母親の姿もみられた。

修了式で斉田園長が子どもたちに「幼稚園では、自分の心で自分の考えを回りの人に伝えるようになれました。小学校にも安心して通えます」と励ましの言葉を伝え、来賓で出席していた田中誠・日吉台小校長も「一年生になったらたくさん勉強があります。自分で楽しいなあという気持ちで元気に小学校に来てください」と呼びかけると、園児らはみな笑顔で大きくうなずいていた。

幼稚園での思い出

杉本　寧音（ねね）
地域の人とドッジボールをしたこと

高田　一輝（かずき）
運動会を地域の人とできた

中西　彩晴（いろは）
フラダンスをおぼえたこと

松下　絢音（あやね）
ひなまつりにドッジボールをしたこと

吉田　汐華（ゆうか）
ドッジボールやかくれんぼをしたこと

写真は幼稚園の卒園式で（敬称は省略しました）

公共施設あり方検討会

27年度の意見聴取終わる

多数の老朽化施設を抱え維持管理費増大と、人口減少による財源不足に見舞われるなか、公共施設のサービスのあり方と将来の施設配置で住民の意見を聞く大津市の「公共施設の地域別あり方検討会」は３月中旬開いた４回目の会合で、今年度の検討会を終えた。

検討会は、昨年９月初会合。市内を７ブロックに分け、各学区の自治連合会、各種団体から推薦を受けた住民が参加。日吉台からは中北、中部、中南部のブロックに参加、約70人で構成するブロック討議で30年後を見据えた公共施設の姿、サービスなどで議論を戦わせた。

検討会が始まった昨年には、幼稚園規模適正化実施計画素案で市立幼稚園統合化案が打ち出されたり、市民センターの統合化が報道されるなか、「検討会で議論してもすでに市の内部で結論が出ているのでは」と検討会開催に疑問視する声も出ていた。

雄琴、坂本、日吉台、下阪本、唐崎の中北ブロックでは、市民センターについては、センターと幼稚園を統合する▽将来は市民センターは自治会に譲渡する▽生涯学習施設については、公民館の運営をボランティアとし、利用を無料にする▽小、中、幼稚園については、小、中一貫教育を行なう▽空き教室を活用して学童保育を行なう▽生徒、児童の減少にあわせ統合する▽３年保育を実施する▽保育園は民間にする▽認定こども園とケアセンターを統合する－などの意見が出されていた。

桜地蔵初めての春

シンボル桜を地蔵尊に再生

地域の願い込め彫刻、建立

２丁目北

見事に咲き誇る二丁目北集会所のソメイヨシノ

日吉台２丁目の二丁目北集会所の一角、真新しい木造祠に１体の木造地蔵尊がまつられている。集会所庭には、地域のシンボルとなる見事なソメイヨシノが植わっていたが、老木化などの影響でやむなく伐採、地域の人らが桜の木を惜しんでお地蔵さんとして老木桜を見事によみがえさせたのだ。住民らは、親しみを込めてこの地蔵を「二北の桜地蔵さん」とよび、建立、鎮座後初めての桜の季節を迎えることになった。

桜は、２丁目北の住宅地造成工事が始まった昭和50年代、集会所の庭に植えられた。地域の子供たちが立派に育つ姿を見守るように桜も生長。樹高も５メートルと見上げるようになり、季節の春には見事な花をつけるようになっていた。

ところが近年、地域は高齢化、子供たちの歓声は少なくなり、同時に集会所も30年の歳月で老朽化、集会所の利用も激減、内部に入ると湿気臭が漂うようになってしまい集会所改修工事が自治会の最大課題になっていた。

このため地元自治会は、平成25年５月、自治会のなかに「集会所を考える会」を発足、集会所の利用と改修問題を協議、検討してきた。

この検討のなかで問題になったのが地域のシンボル桜の取り扱い。すでに老木化も始まっており、伐採化案が出され、地域内で「残す、残さない」で大きな論議を呼んだ。

検討のなか、地域に仏像制作が出来る彫刻家が居住、伐採後、この桜の木を利用してお地蔵さんを彫ってもらう案が浮上、26年２月の自治会総会で「伐採した桜の木から地蔵さんを彫り、桜が植わっていた場所にまつり、桜の供養と子供たちの安全、地域の発展を祈念する」提案がなされ、住民の了解を得て、再生案が決定した。

桜は26年４月、最後の満開をみんなで楽しんだあと、惜しまれるなか伐採。地域に住む菱田学さんが、１年がかりで彫刻、制作した。像高約50センチの一刀彫。住民らは、木造の祠もやはり手造りで製作、27年夏、開眼法要を行ない、この春、初の桜シーズンとなった

桜の木で彫られた二北の桜地蔵

伝統芸能を後世に

子供日本舞踊体験教室

伝統芸能を後世に伝えようと日吉台で、子供たちが日本舞踊の稽古に励んでいる。春分の日の21日、大津市園城寺町の大津市伝統芸能会館で開かれた発表会「つぼみの会」の晴れ舞台で、子供たちは、ひごろの練習の成果を披露、かけつけたお父さんやお母さん、地域の人らの大きな拍手を浴びていた。

文化庁の伝統文化親子教室事業の補助を受けて行なう日本舞踊体験教室「和遊の会」（村田俊子委員長）の幼、保育園児から高校生までの男女15人。日吉台はじめ雄琴、小野学区に住み、日吉台３丁目18－８、花柳禄春奈＝本名、藤井浩子さん＝の指導で、毎週、火、木の夕から夜にかけ、三丁目東集会所で稽古を積んでいる。＝**写真**

この日本舞踊体験教室は、日本の伝統芸能の一つ、日本舞踊を次代を担う子供たちに伝え、広めようと禄春奈さんが、国の補助を受け、10年ほど前からボランティアで活動を初め、送り出した子供たちは、ゆうに１００人を超えるという。禄春奈さんは「日本の伝統芸能の良さを知ってもらうため気軽にこの教室を体験してもらいたい」と話している。

広がる仲間の輪

三東自治会行事

三丁目東自治会（中野義勝会長）の会員らで組織する「もっとおもろいことをやろう会」が活動を始めて１年。世話役らの努力が実って実施する行事やイベントが増加、友だちの輪が広がっている。

おもろいことをやろう会は、集会所の改修がきっかけ。昨年４月、集会所をもっと住民に利用してもらおうと、自治会が音頭とりとなって住民に働きかけ発足、15人の仲間が集まった。

同集会所では、ジャズが流れる会場で、ケーキやコーヒー、ビールなどを片手におしゃべりや友人らと語り合うサロン「Ｊ・Ｔ・Ｎ」が毎月１回、開催されていた。集まった仲間たちは、このサロンの人気の高まりに着目、「もっとおもろいことをやろう」と行事やイベントを幅広く検討、地域の老人会「コスモスクラブ」とも連携、参加呼びかけをしてきた。

同会が現在実施している催しは毎週月曜日午後１時開催の「月曜サロン」▽第１金曜日午後５時開く「おとなのたまり場」▽第２土曜日午後１時半から開催のサロン「Ｊ・Ｔ・Ｎ」▽木工教室など。月曜サロンは、囲碁や麻雀、ＤＶＤ観賞、映画観賞などを開催、おとなのたまり場では、お酒やビールなど飲みながら語り合え参加費は２００円と手ごろ。木工教室では、ラックや、ワインコースターづくり、ひな人形づくりなど地域に住む専門家の指導を受けて実施され多くの女性たちでにぎわうという。

同会によると、参加者は１０２歳の男性を最高齢に現役を引退した高齢者が多いが、いずれの催しも楽しく和やかに行なわれているという。他地域の人たちの参加も呼びかけ、もっと住民の輪を広げたい、と意気込んでいる。